

大阪府看護協会と連携した WLB モデル事業を推進しました

日本看護協会は平成 22 年度から「看護職の WLB 推進ワークショップ事業」の実施に取り組みこれまでに 574 施設が参加されました。大阪府医療勤務環境改善支援センター（以下支援センター）では、大阪府看護協会と連携して、WLB 推進による取組みの浸透、働き続けられる職場づくり、人材の確保・定着を目指して支援を行うモデル事業を実施しました。

1. 目的

大阪府看護協会の WLB 推進事業と支援センターとの連携モデル（好事例）をつくり連携を推進する。また、連携の在り方や連携していくうえでの課題などを明らかにする。

2. 事業の概要

- 1) モデル事業実施期間：平成 28 年 6 月～平成 29 年 3 月
- 2) モデル事業実施施設：ペガサスリハビリテーション病院

3. 事業内容

平成 28 年度

7 月 「医療版 WLB インデックス調査 Ver.1」を実施。

9 月 1 回目訪問

日本看護協会 1 名、大阪府看護協会、支援センター担当者 6 名、合計 7 名で施設訪問。施設側は院長を含めた 10 名が参加。1.5 時間は資料に沿った講義、3 時間はワークショップを開催。全職種が参加して KJ 法による現状分析と課題の抽出。

11 月 2 回目訪問

10 月末アクションプラン作成の支援。大阪府看護協会担当者 2 名による訪問支援。

平成 29 年

1 月 3 回目訪問

支援センター相談員と大阪府看護協会 2 名で訪問。看護部長、看護師長 2 名、事務長、検査部長、検査部長兼職員サポートセンター長が参加。分析を充実させプランに結び付けること、施設全体で取り組むことがモデル事業になることを説明。

2 月 4 回目訪問

支援センター相談員と大阪府看護協会 2 名で訪問。看護部長、看護師長 2 名、事務長、検査部長兼職員サポートセンター長が参加。分析を充実させプランに結び付けること、取組みやゴール、分析とアクションプランのつながりなどのアドバイスと確認。報告書の記載事項などの確認を行った。

施設からは今回の取組みの中で、インデックス調査の結果、自院の強み・弱みが分かった、また、各部署の状況が良く理解でき連携する意識が強まった、チーム力が上がり各職種が協力して改善に取り組むことができた等の言葉が聞かれました。